

大学コンソーシアム市川における中期計画目標達成に向けての I R 分析 (共同 I R 報告書)

1. はじめに

大学コンソーシアム市川は 2018 年 11 月、千葉県市川市に所在する 5 つの高等教育機関（3 大学、2 短期大学）が教育資源や機能等の活用を図りながら幅広い分野で相互に連携協力し、教育研究の質的向上を図り、地域社会の発展に資することを目的として設立されました。また、同時にこの大学コンソーシアム市川と市川市及び市川商工会議所との三者間の包括連携協定を締結し、「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム」を形成しました。本プラットフォームの特徴は、各高等教育機関のリソースを共同活用し、「ゆとりある子育て環境」「高齢化社会に対応した地域医療・福祉サービス」「現代社会にあった都市型ビジネスの展開」等といった都市型の具体的な地域課題を実践的な学びの中で解決することにあります。この目的の達成のため、本プラットフォームでは市川市及び市川市の高等教育それぞれの現状を分析し、課題と目的及び実行のための具体的なプロセスを中期計画としてまとめています。

本中期計画では、地域つながり力を持つ人材育成のため、12 の取組目標を設定しています。この取組目標の評価について、2 つのアウトカム目標が設定されていますが、その 1 つとして「プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均満足度 3.5 以上」があります。本共同 I R は、各高等教育機関の学生生活に関するアンケート結果の分析とその比較を通して、このアウトカム目標達成の一助となることを目的とし、2020 年度より活動を行っています。

2. 調査・分析方法

本分析は本コンソーシアム参加校 5 校のうち 4 校（千葉商科大学、和洋女子大学、昭和学院短期大学、東京経営短期大学）の学生生活に関するアンケートから、2018 年度実施分の 1 年次生を抽出して行います。アンケートの質問項目は各高等教育機関で異なりますが、ほぼ同内容の学習時間に関する質問、アルバイトに関する質問、授業及び施設設備等に対する要望にフォーカスしています。なお、すべての高等教育機関がこれらの質問を行っていないので、該当する質問項目がある場合のみを対象としていることを付け加えておきます。

3. 分析結果

(1) 対象者数

本分析の対象者数は以下のとおりです。

	千葉商科大学	和洋女子大学	昭和学院短期大学	東京経営短期大学	合計
対象者数	1414	811	162	162	2549

(2) 学習時間に関するアンケート結果（千葉商科大学、和洋女子大学、昭和学院短期大学）

学生の状況を知るためには、学生の学習状況を把握することが不可欠であると考えられます。この観点について各高等教育機関の結果を分析し傾向を比較します。

① 千葉商科大学

千葉商科大学では、毎年「学生生活実態調査」として、学生の生活実態を把握し、大学生活全般の向上を図ること目的として、学習時間、施設設備、アルバイト、大学の満足度等幅広い質問項目でアンケート調査を行っています。学習時間に関する質問項目は、「大学の各講義の復習や課題に使う時間」「大学の各講義の予習に使う時間」「資格取得の学習に使う時間」「講義を除く学習に使う時間(例：英会話、パソコンスキル)」(それぞれ1日あたりの時間)の4つの項目から構成されます。以下図1-1～1-3にアンケート集計結果を示します。

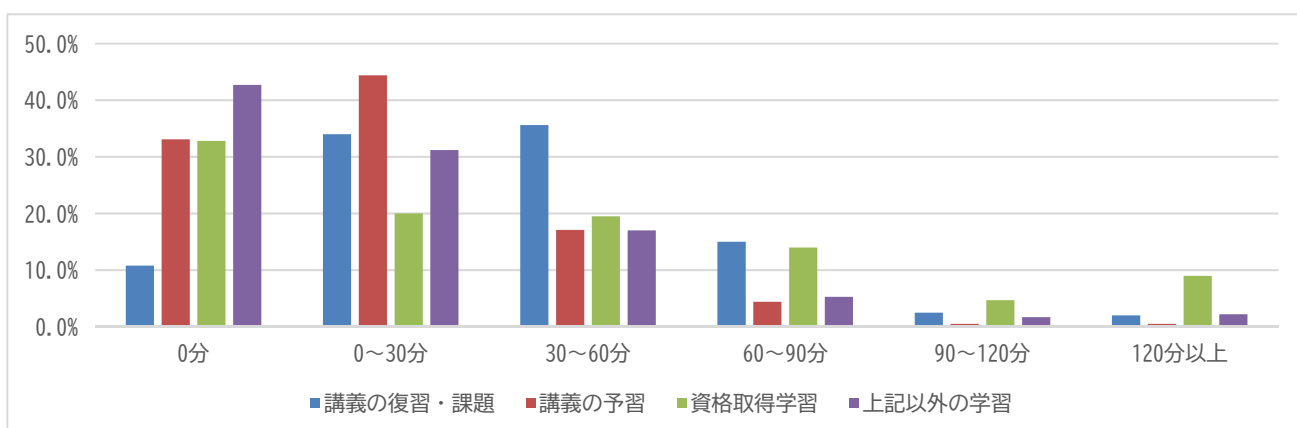


図1-1. 千葉商科大学の学習時間に関するアンケート集計

千葉商科大学学生の学習時間は、講義の予習・課題の学習時間に30～60分程度、講義の予習に0～30分程度、資格取得学習及び上記以外の学習時間は0分という回答が一番多くなっています。全体的に学習時間が少なく、今後学習時間を増やすためにどのような教育上のサポートをすべきか、ということが課題となると考えられます。一方で、資格取得学習に60分以上かける学生が2割強見られ、この点は千葉商科大学における学習時間の特徴的かつポジティブなところであると考えられます。

② 和洋女子大学

和洋女子大学では、2年に一度「学生生活アンケート」として、大学の教育や学生生活に関連するさまざまな問題について、学生がどのように感じているのかを明らかにし、今後の大学改革にその意向を活かしていくことを目的に、学習目標、施設設備、卒業後の進路予定、IT環境に関する質問、大学の満足度等幅広い質問項目でアンケート調査を行っています。学習時間に関する質問項目は、「授業以外の学修(学習)時間」(1日あたりの時間)です。以下図1-2にアンケート集計結果を示します。

和洋女子大学学生の学習時間は、2時間以上の学習をしている学生が約2割、1時間以上の学習をしている学生が半数以上となっています。あまり学習をしない学生は15%程度と少なく、全体的に学習時間が長くなっていることから、学習意欲の比較的高い学生が所属している、学習意欲の喚起に比較的成功していると考えられます。

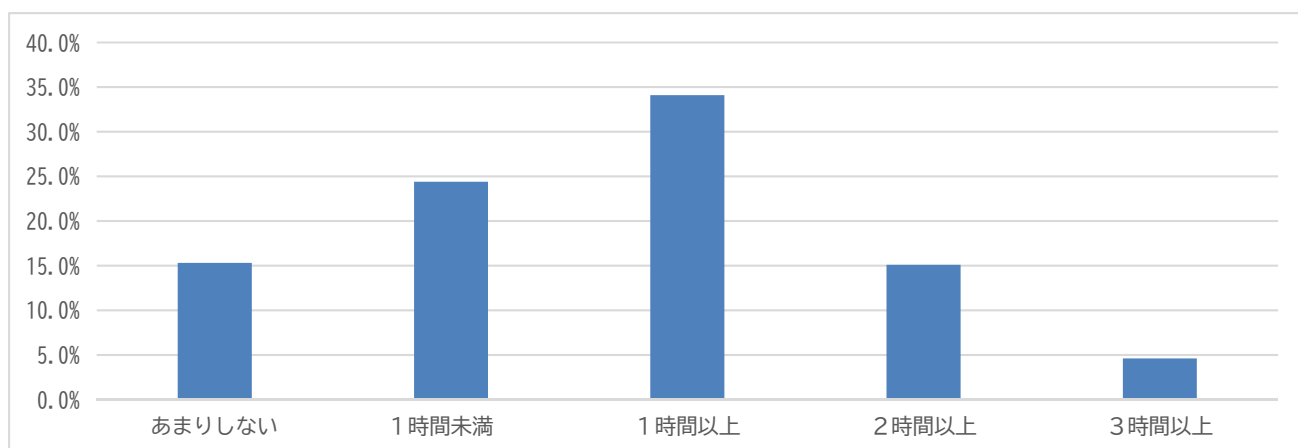


図 1-2. 和洋女子大学の学習時間に関するアンケート集計

③ 昭和学院短期大学

昭和学院短期大学では、毎年「学生生活調査」として、入学理由等の入学前情報、生活習慣、学生生活、今後の進路等幅広い質問項目でアンケート調査を行っています。学習時間に関する質問項目は、「授業に関連する予習、復習や宿題」「授業に関係ない自主的な学習」（1週間あたりの時間）です。以下図 1-3 にアンケート集計結果を示します。

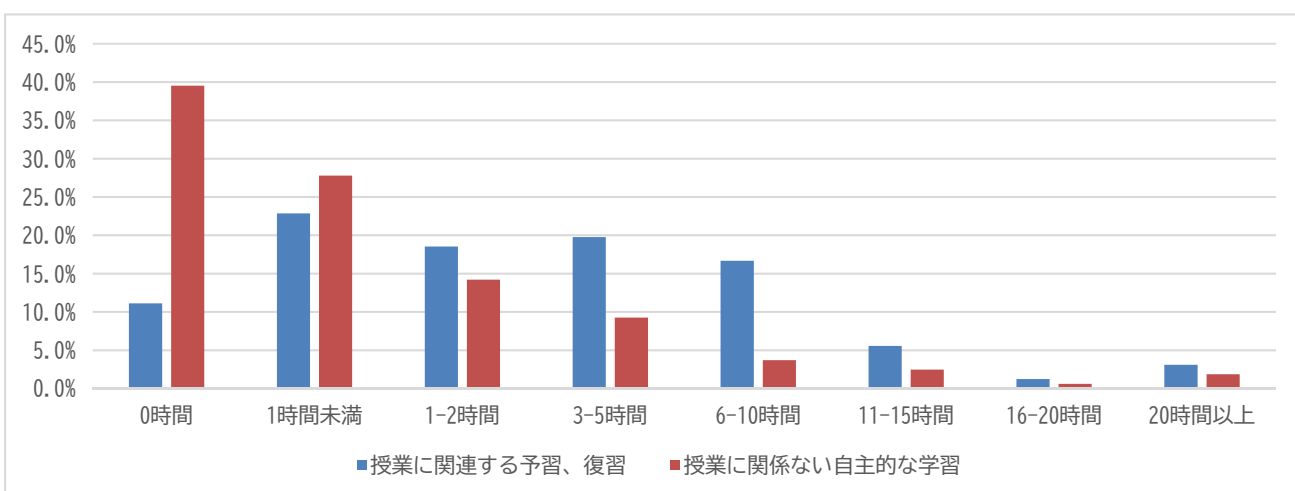


図 1-3. 昭和学院短期大学の学習時間に関するアンケート集計

昭和学院短期大学学生の学習時間は、授業に関連する予習・復習に時間を使う学生が多く、25%程度の学生が1週間あたり6時間以上の学習を行っています。一方で、授業に関係ない自主的な学習を行う点については、0時間の学生が約4割、週に1時間未満の学生が65%程度いることが読み取れます。この結果から、昭和学院短期大学の学生は授業に関する学習を重視する傾向があることがこの点から読み取ることができると考えられます。

(3) アルバイトに関するアンケート結果（千葉商科大学、和洋女子大学、東京経営短期大学）

学生の状況を知るためには、学生の学習状況とともに、アルバイトの有無を把握することもまた大切です。特に、出勤日数が多い・時間が長いアルバイトは前述の学習時間にも大きく影響すると考えられます。この観点について各高等教育機関の結果を分析し傾向を比較します。

① 千葉商科大学

千葉商科大学のアンケートでは、アルバイトに関する質問項目は、「アルバイトの目的(複数回答可)」
「1週間のアルバイトの平均日数」の2つの項目から構成されます。以下図 2-1、2-2 にアンケート集計結果を示します。

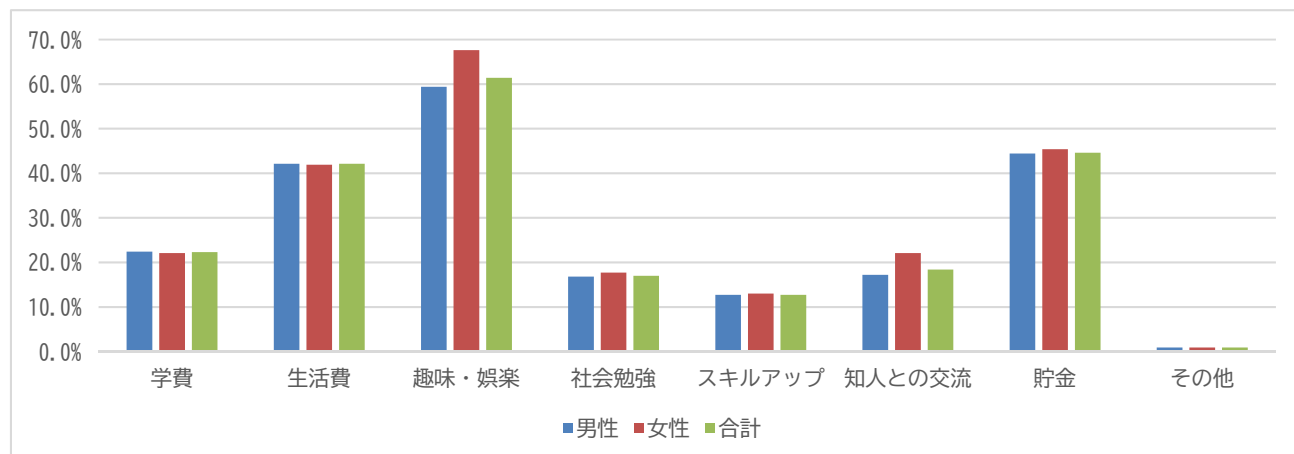


図 2-1. 千葉商科大学のアルバイトの目的に関するアンケート集計

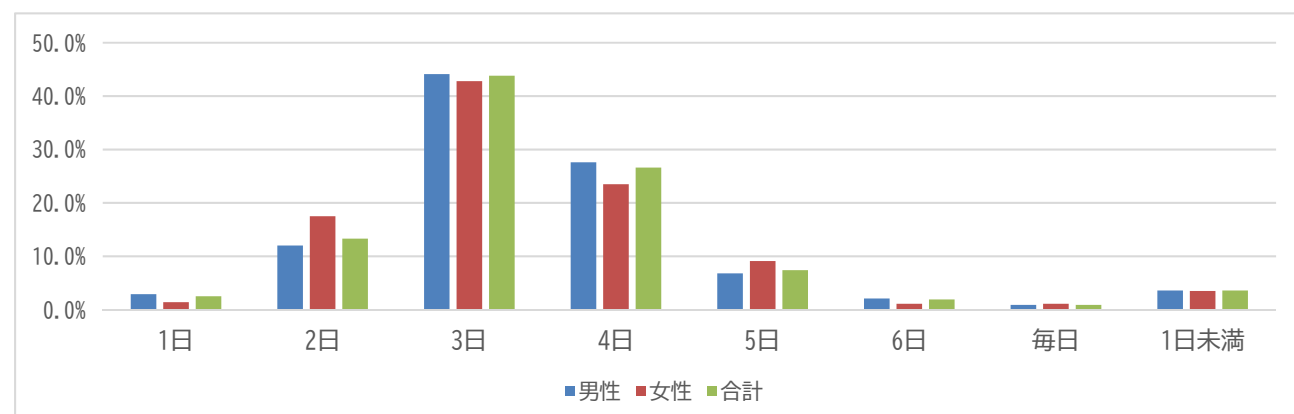


図 2-2. 千葉商科大学のアルバイト日数に関するアンケート集計

千葉商科大学学生のアルバイトの目的は、趣味・娯楽、貯金、生活費の順に割合が高く、特に女子学生においては趣味・娯楽の割合が7割近くになっています。また、アルバイトの目的を生活費としている割合が4割ほどとなっており、アルバイトの収入が生計を立てる上での重要度が高い学生が多いことが読み取れます。一方アルバイト日数は3日及び4日の割合が全体の65%を占めており、学生生活の中においても大きな位置づけになっていることが示唆されます。

② 和洋女子大学

和洋女子大学のアンケートでは、アルバイトに関する質問項目は、「アルバイトの主な目的」「1週間のアルバイトの平均日数」の2つの項目から構成されます。以下図 2-3、2-4 にアンケート集計結果を示します。

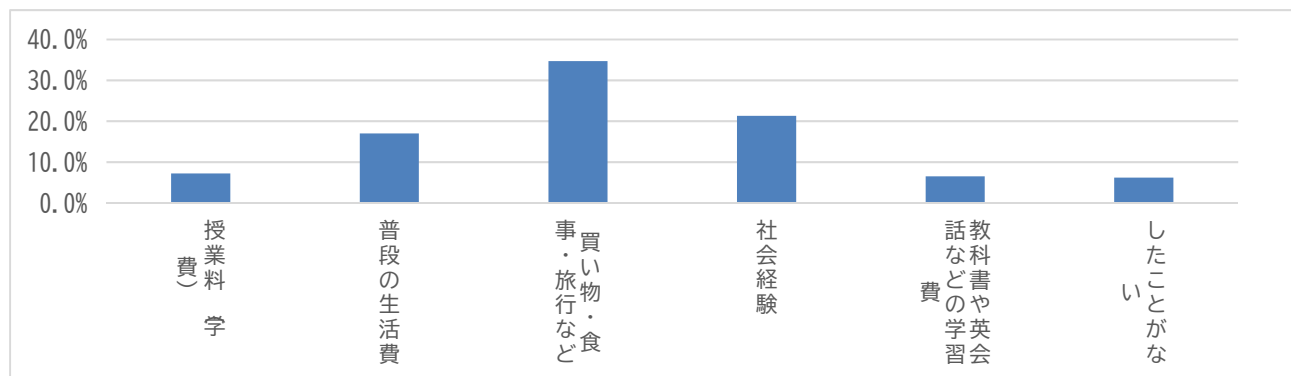


図 2-3. 和洋女子大学のアルバイトの目的に関するアンケート集計

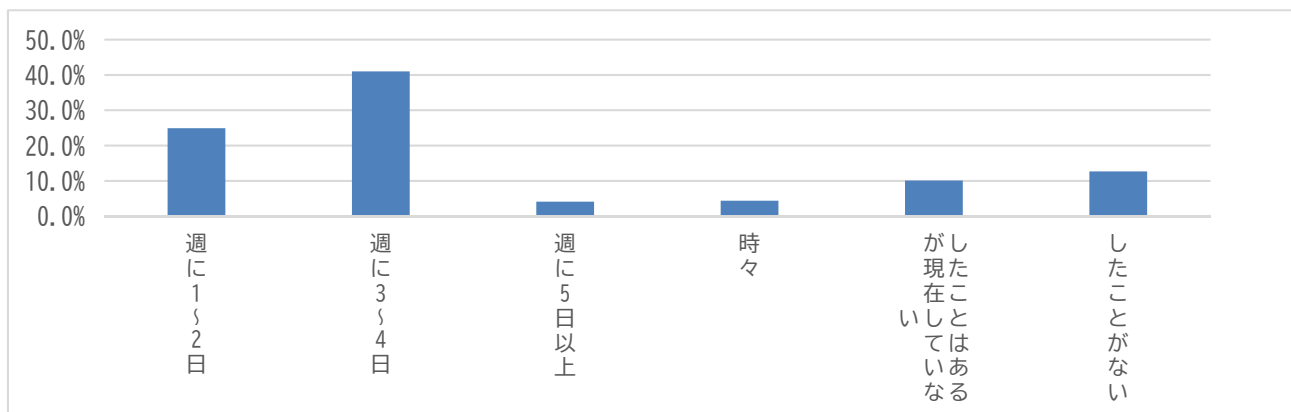


図 2-4. 和洋女子大学のアルバイト日数に関するアンケート集計

和洋女子学生のアルバイトの目的は、買い物・食事・旅行などで娯楽、社会経験、普段の生活費の順に割合が高くなっています。また、アルバイト日数は3～4日の割合が多く、全体の40%を占めています。一方で、生活費や学費にアルバイトの収入を充てている学生が合計で2割程度と比較的低くなっていることも特徴として挙げられます。

③ 東京経営短期大学

東京経営短期大学では、毎年「学生生活に関する実態調査」として、健康管理、情報提供の満足度、学生生活、PC環境等、幅広い内容でアンケート調査を行っています。アルバイトに関する質問項目は、「アルバイトの主な目的」（複数回答可）から構成されます。以下図 2-5 にアンケート集計結果を示します。

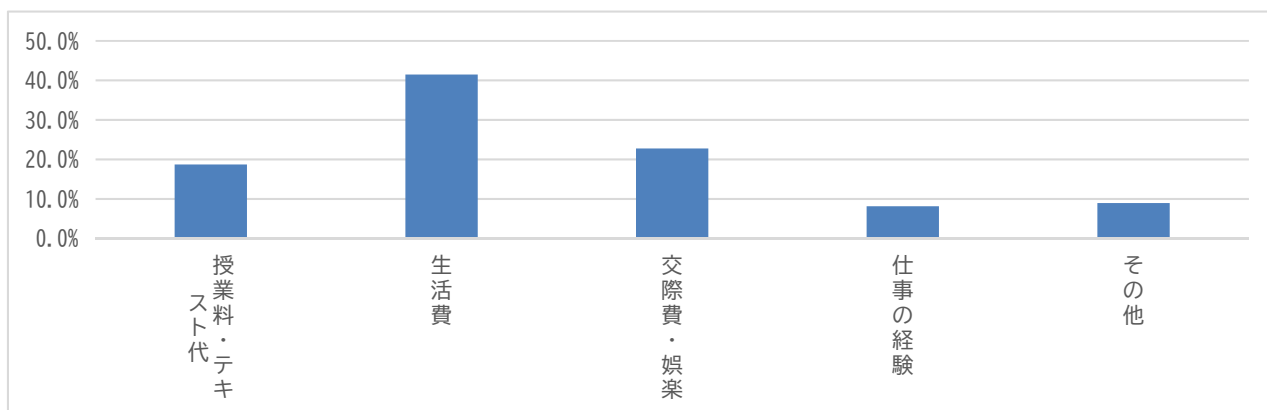


図 2-5. 東京経営短期大学のアルバイトの目的に関するアンケート集計

東京経営短期大学学生のアルバイトの目的は、生活費、交際費・娯楽、授業料・テキストの順に割合が高くなっています。特にアルバイトの目的を生活費としている割合が 4 割ほどとなっており、千葉商科大学同様、アルバイトの収入が生計を立てる上での重要度が高い学生が多いことが読み取れます。

(4) 授業及び施設設備等に対する要望（千葉商科大学、和洋女子大学、昭和学院短期大学）

学生満足度を上げることを考えていく上で、学生が各高等教育機関のどの部分を改善してほしいかという声を拾うこともまた重要であると考えられます。この観点について各高等教育機関の結果を分析し傾向を比較します。

① 千葉商科大学

千葉商科大学のアンケートでは、授業、施設設備等に対する要望は、「授業・講義の内容」「教室などの学内設備」「授業カリキュラム」「アクティブラーニングの内容」「キャリア・就職支援」「学食・購買施設」「図書館の設備」「パソコンやインターネットなどの情報利用環境」「留学に関する支援」「資格取得に関する支援」「その他」の 11 項目（複数回答可）から構成されています。以下、図 3-1 にアンケート集計結果を示します。

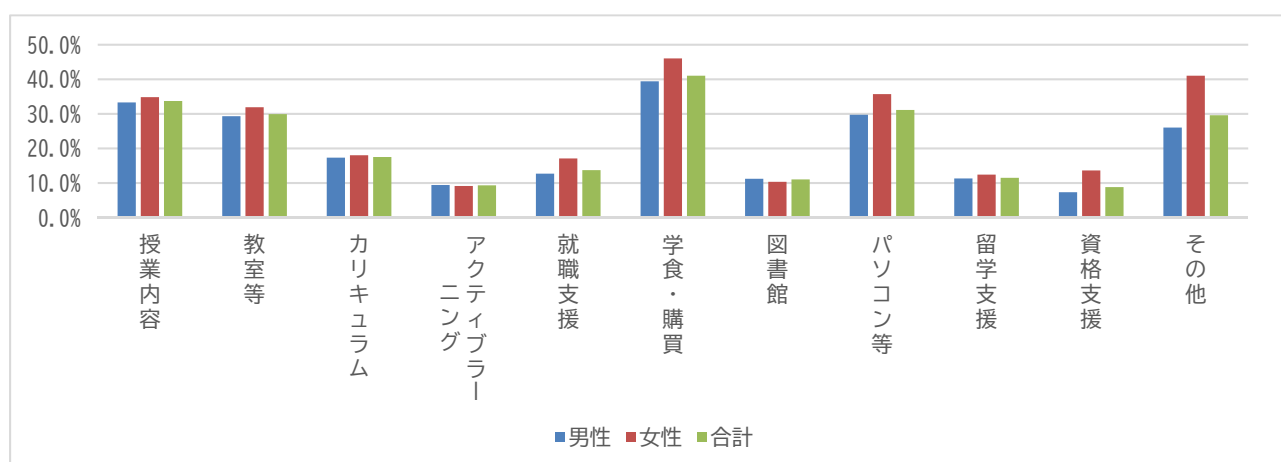


図 3-1. 千葉商科大学の授業及び施設設備等に対する要望に関するアンケート集計

千葉商科大学の学生からは、学食・購買、授業内容、パソコン等、教室等の順に改善要望が寄せられています。特に、女子学生の方が男子学生に比べて、施設設備等に対する要望が多くなっています。全体的に施設・設備の面に関して改善してほしいという声が多くなっていることが、本結果から読み取ることができます。

② 和洋女子大学

和洋女子大学のアンケートでは、授業、施設設備等に対する要望は、「カリキュラムの内容」「教員の教え方」「教員との関係」「学生の学び方」「海外研修・留学」「学外活動（産学連携など）」「大学・学生の気質や雰囲気」「友人との関係」「就職活動」「大学の行事」「サークル活動」「ボランティア活動」「事務職員の対応」「施設や設備」「所在地や景観」「伝統があること」「その他」の 17 の項目（5 つまで選択可能）から構成されます。以下図 3-2 にアンケート集計結果を示します。

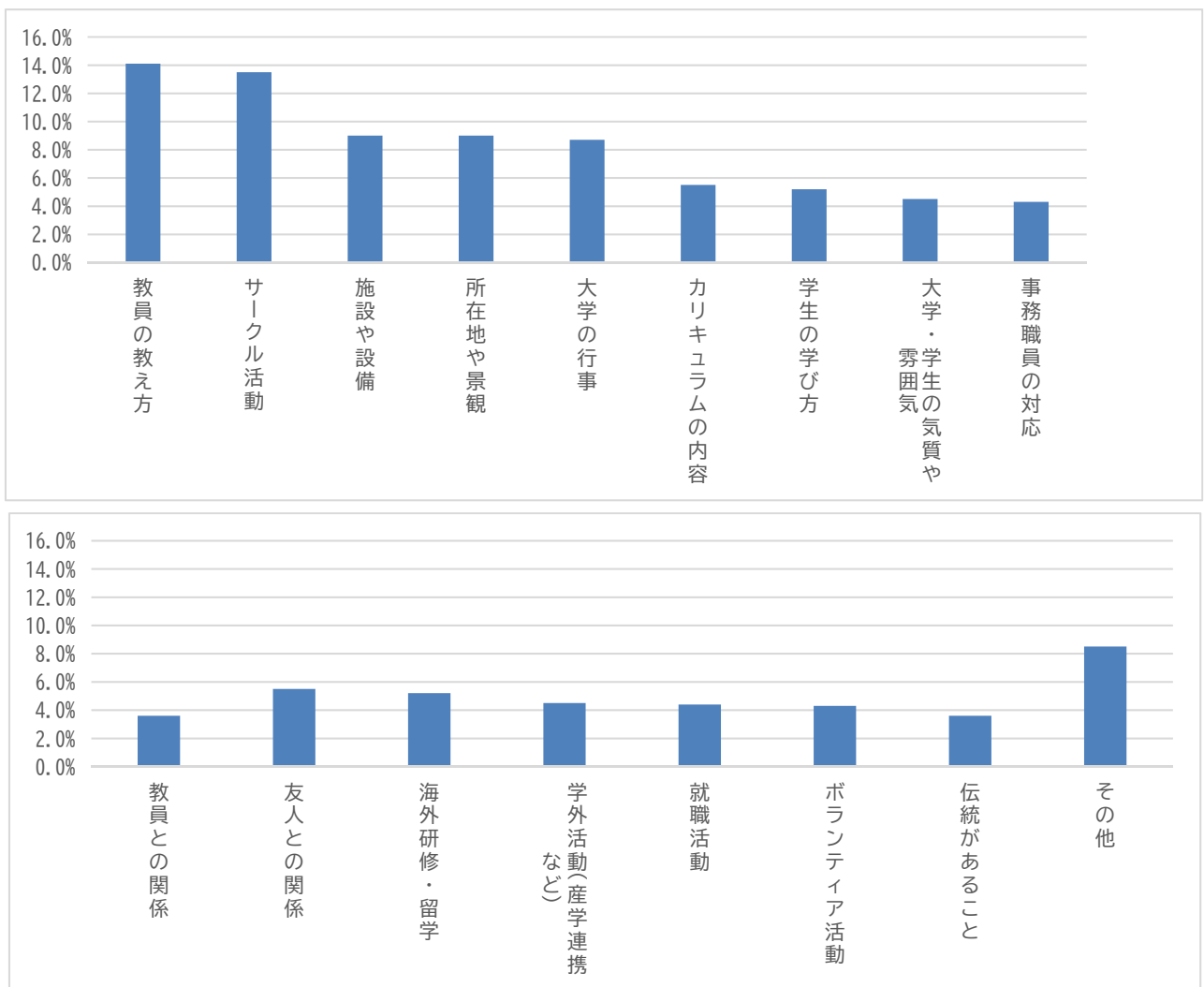


図 3-2. 和洋女子大学の授業及び施設設備等に対する要望に関するアンケート集計

和洋女子大学学生は、教員の教え方、サークル活動、施設や設備、所在地や景観、大学の行事の順に改善要望が寄せられています。ただし全体的な傾向として、授業、施設設備等に対する改善を要している割合は少なく、学生の満足度は比較的高くなっていると考えられます。

③ 昭和学院短期大学

昭和学院短期大学のアンケートでは、授業、施設設備等に対する要望は、「大学の雰囲気」「なんでも話せる（相談できる）教員の存在」「事務窓口の親切な対応」「学びたい・興味のある授業の解説」「なんでも話せる（相談できる）友人の存在」「クラブ・サークル活動の充実」「教育施設（図書館・実習室・演習室など）の充実」「学生食堂・学生ホール・クラブ棟などの充実」「一人で過ごせる場所の充実」「その他」の 10 項目（複数回答可）から構成されています。以下、図 3-3 にアンケート集計結果を示します。

昭和学院短期大学学生は、クラブ・サークル活動、学食等、大学の雰囲気順に改善要望が寄せられています。特にクラブ・サークル活動、学食等といった正課の授業以外の学生生活の面で、より改善してほしいという傾向が見られます。

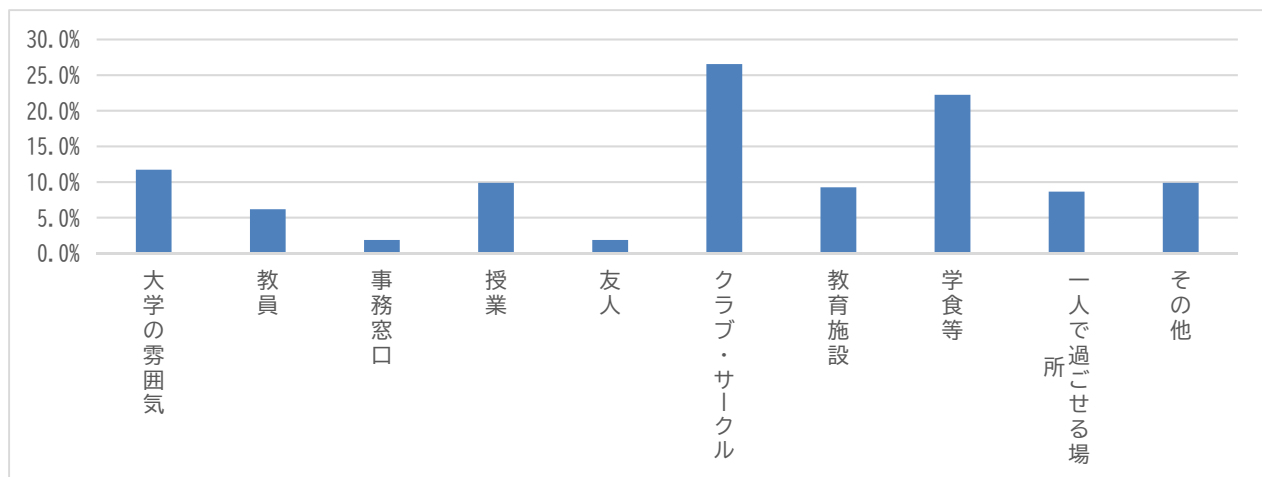


図 3-3. 昭和学院短期大学の授業及び施設設備等に対する要望に関するアンケート集計

4. まとめと今後の課題

今回は、各高等教育機関の学生生活に関するアンケート調査内容を分析し、学習時間、アルバイト、授業及び施設設備等に対する要望といった点に注目して、各校間の比較を行いました。高等教育機関ごとに特徴があり、それぞれの高等教育機関の属している学生の特色や今後の課題、及び各機関の差異を確認することができたと考えられます。

一方、今後「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム」として学生満足度を上げていく取り組みを考えるとという観点で見ると、相互のアンケートにおいて設問の聞き方や選択肢の差異があり、各高等教育機関単体での傾向を見ていく上では十分であるものの、各高等教育機関を超えて共同で学生満足度を改善していく上では、不十分であることは否めません。これは、学生生活に関するアンケートが各高等教育機関の問題意識に根差し、立案・設計・実施されていることから生じる課題であると思われます。今後、本プラットフォーム全体として施策を立案するにあたっては、各高等教育機関共通の質問事項の設計・開発、あるいは別途共通のアンケートを設計・開発し、実施するなどの方策が必須であると思われます。来年度以降は、この点について十分に検討し、共同 I R としてより本プラットフォームに貢献できるよう、活動を行う予定です。